

広報 妻籠宿



公益財団法人妻籠を愛する会 平成31年2月20日発行

No.129



(協本陣奥谷 撮影者:平野かほり)

島崎藤村は童話集「ふるさと」の中でひのき笠のことを書いています。
新しいものは良い香りがすること、ひのきは材木として立派なばかり
でなく、皮は屋根板の代わりにもなるなど。
今でも畑仕事やお茶摘の時には必需品です。
大切なこの地域の民具と言えます。

小笠原 美雪

第41回全国町並みゼミ長野松代・善光寺大会

南木曾町教育委員会 宮川 護

文化財保護の担当となってから、つい建物のみに目が行きがちとなっていますが、町並みゼミは「町並みを保存することとはどういうことなのか。」を確認する場であるように思います。全国から集まる会員の方々からの報告や交流をとおして周囲の自然景観と建物とが一体となった町並み保存が重要であることを再認識しました。

町並み保存の核となるのは、この町並みゼミに参加した会員の方々がそうであるように、そこに暮し現代的な生活をする中でも、歴史的な生活様式や伝統文化を重んじ守っている方々であると思います。そうした方々から貴重なお話を聞くことができたことは大変勉強になりました。

一つ気になったのは、全国的な少子高齢化の波は町並みゼミの参加者にも如実に表れており、5年ほど前に参加した時よりも若い世代の参加者が少ないように思えたことです。これからの町並み保存運動を牽引していく世代の方々との意見交換がもう少しできればなお良かったと思います。

閉会式で聞いた言葉、『「ふるさは遠きにありて思うもの」ではなく、「ふるさは近くにありて守るもの」』は、町並み保存を続けていく指針なのではないかと思います。



〈第3分科会〉

南木曾町産業観光課 小倉 凱士

11月16日～18日に、長野市松代地区にて「町並みを守って歴史文化のまちづくり」をテーマに全国から400人が集まり、「長野松代・善光寺大会」が開催されました。

長野市松代地区は、江戸時代250年間にわたり真田家の居城となった松代城下町や、古くから人々の信仰を集めてきた戸隠神社など、数多くの歴史的遺産があり、これを活かしたまちづくりを住民主体となり取り組んでいます。

基調講演では、神戸芸術工科大学教授・西村幸夫氏による「日本における町並みの歴史と今後の展望-松代から考える-」についてご講演いただきました。明治時代以降の時代の変化に歴史保存が対応して展開してきた経過を振り返り、少子高齢化により空き家が増加している松代では、武家屋敷の池をつなぐ泉水路システムが歴史環境を維持・継承する鍵になると指摘されました。

私たちが参加した分科会では「歴史的建造物の保存と活用」をテーマに、主に歴史的建造物の保存・活用、災害時の文化遺産の救済について、パネルディスカッション・意見交換を行いました。景観法・まちづくり法の制定により、保存・活用の意識が高まり全国的に空き家のリノベーション等による活用、災害時の建物・史料の救済活動の必要性について話し合われました。

今回の町並みゼミに参加して、町並み保存について再認識し、普段からの町並み保存活動が災害時等に生かされ、大切であることを考えることができました。ありがとうございました。



〈北陸・甲信越ブロック会議と妻籠の報告〉

繭玉づくり

妻籠観光協会女性部 藤原恵子

今年も私たち女性部は、1月15日わちのやさんのご協力を頂き、繭玉作りを実施しました。繭玉作りを始めたのは、10年前小林俊彦さんから繭玉のお話を伺い「私たちも作ってみたい」との思いからでした。伝統行事はそれぞれ意味をもっています。繭玉は農作物の豊作・家族の健康を願い小正月に作られてきました。日頃忙しくお店を切り盛りしているおかみさんたちの親睦も兼ねて賑やかに楽しく繭玉を作りました。

10回目となる今回は、手際も良く6キロの米粉をあっという間に捏ね上げました。ほとんどが繭の形の中、それぞれ思い思いに巾着や小判の形などを作り、男性会員に用意していただいたビンカに今年も沢山の人が妻籠を訪れてくれますように…そんな思いを込めて一つ一つ刺してゆきました。こおしんづかさんが紅白のお餅を搗いてくださり、それも笹の枝に刺し華やかさを添えてくれました。

各家の軒下に飾られ静かな妻籠の落ち着いた佇まいにおかみさんたちの思いのこもった赤と白の繭玉は鮮やかにやさしくお客様を迎えてくれています。ふれあい館に飾られた繭玉と餅の前で早速足を止めて写真を撮る外国人のカップルがいました。彼らの写真を通して日本の文化が広がることでしょう。

私たちは、これからも昔から伝わる伝統行事を大切に伝え若い人たちに繋げてゆきたいと願っています。



しめ縄講習会

分館文化部長 磯村賢治

12月16日(日)午後から妻籠分館ホールにて、毎年恒例の妻籠分館しめ縄講習会が開催されました。今回初めて参加したのですが、開会前からすでに参加者の皆さんが一齐に軽トラの荷台で藁を熊手で漉いています。最初から戸惑ってしまったのですが、これがまず藁を選別する工程で、ここで丁寧に行っておくのが綺麗な縄を綯うポイントとのことでした。

綯う分の藁を用意できたら、いよいよ縄を綯う作業に入ります。ホールに敷かれたブルーシートの上へ藁を移し集まった十数人で各々縄を綯い始めます。講師は橋場の加藤幸治さんです。自分も見よう見まねで始めてみたのですがこれが中々うまくいきません。しめ縄は左縄ということで左へ撚っているはずなのになぜか途中で逆になってしまったりと、変に悩んでいるうちに諸先輩方はとても立派なしめ縄をドンドン仕上げられていきます。加藤さんに手付きから習い、周りの人のやり方も教わってもう一度基本通りにとやり直します。悪戦苦闘の上、やっと一本綯うことができましたが、毎年参加されている皆さんはもう二本目三本目、見事な神棚用の太いしめ飾りまで…。これは既に講習会レベルではないのではとも思われましたが、とりあえず自分でできた一本を、ハサミで切りそろえて仕上げることができました。何事も基本は大切だと改めて実感した講習会でした。

自分でしめ縄づくりを始めたい方はもちろん、自宅でしめ縄を作られている方も次回は一緒にいかがでしょうか。解っているつもりでも、何か発見があるかもしれませんよ。



餅花は小正月に豊作を祈る飾りで、その姿から地域によっては花正月と呼ぶそうです。また、松の内に忙しく働いた女性が実家に帰省し、ゆっくり過ごせる日ということで、女正月とも呼ぶとか。

その昔、しんしんと降る雪の中、にぎやかな女性たちの笑い声が響く一日だったのでしょうか。

(広報部:小笠原美雪)

第51回文化文政風俗絵巻之行列開催！ 2018年11月23日(金)

岩倉 鈴木 伸 一

商工観光係となり、昨年に引き続きこの行列に参加させていただいております。昨年は「瓦版配り」役（慣れた方が参加できなかったため代役として）を体験し、今回は「駕籠かき」役を体験させていただきました。

当日、衣装に着替えたところ、運動不足？食べ過ぎ？のせいか、衣装がバツンバツンでしたので、この行列で少しでも痩せればと思いつつ、受付を済ませ出発まで待っていました。出発際に駕籠に乗る子供を確認したところ、特に決まっていなかったことだったので、近くにいた子供二人に乗らないかと声をかけたところ、「二人で乗る」と思ってもみない言葉が…。空で歩くより絵になるかと思い、小さなお客様二人を乗せて出発しました。道中では、観光客から「かわいいね」、カメラマンから「こっち向いて」などの声が聞こえてきました。

肩を変え、交代しながら担ぎ、小さなお客様を無事、大妻籠まで届けることができました。小さなお客様二人から「ありがとう」の言葉をいただき、一日の疲れが吹き飛びました。

最後になりましたが、この行列に携わった皆様、大変お疲れ様でした。



茅ヶ崎市役所尺八部 熊谷 健 太

毎年この行列には、茅ヶ崎市役所尺八部の研修の一環として、「虚無僧」衣装で参加させていただいており、今年も6名で参加させていただきました。

私たち尺八部がいつ頃から参加させていただいているのかすぐにはわかりませんでした。おそらく数十年の間、妻籠宿に来させてもらっていると先輩からは聞いております。

その間、お世話になっている民宿の皆様や、お昼ご飯をご馳走になるお宅の皆様、さらには日本各地よりこの行列に参加するために妻籠宿に来られている方々等、この行列をきっかけに様々な方々と交流を深めてこられたことを大変ありがたく感じております。

そんな中、私が参加させていただくようになったのは5年ほど前からになりますが、それからは毎年11月23日が待ち遠しく、妻籠宿の皆様が守ってこられた町並みを歩くことを大変楽しみに参加させていただいております。

この5年間、天気予報の怪しい年もありましたが、ふたを開けてみれば天気に恵まれた年が多かったように思います。そして今年もよい天気の中での開催となりましたが、このことは、行列に関わる全ての人の思いの強さによるものではないかと強く感じております。

「妻籠を愛する会」や関係者の皆様には、今後もこの妻籠宿を守るという志を貫いていただき、この素晴らしい妻籠宿が、次世代に引き継がれていきますことを、遠く湘南の地より祈念しております。今後ともよろしくお願いいたします。





〈宿場役人〉



〈宿場で先導役の陣屋太鼓〉



〈瓦版売り〉



〈城山の坂：もうすぐ恋野です〉



〈久保洞を歩く親子たち〉



〈寺下：愛友会〉

〈実行委員会から〉

今年の行列は51回目と、新たな半世紀へ向けての出発となりました。三連休の始まりと晴天の下、大勢のお客様にお越し頂き盛大に開催することが出来ました。

今回の行列参加者は、町内76名、役所関係37名、外部から31名の計144名でした。裏方となります実行委員、地元湯茶接待、和智楚神社役員等で66名、総勢210名となりました。

実行委員の皆さんは準備から当日まで本当にお疲れ様でした。行列に参加の皆様は渡島から大妻籠まで4kmの長い道のりをよく歩きました。わらじやわらぞうりでは疲れたことでしょう。また、行列を見物していただいた方々、ありがとうございました。いろんな人たちの思いや協力があって年に一度の妻籠の大行事は無事終わりました。

次回に向けてまた新しい活動が始まります。今年の11月23日も皆様よろしくお願いたします。

(広報部:下枝その子)

第9回ガイドさんの井戸端会議

—馬籠宿にて—

妻籠宿案内人の会会長 野田 覚

ガイドさんの井戸端会議が今回で9回目を迎え平成31年1月18日馬籠宿に35人が集まり、南木曾町からは5人が参加し開催された。

開会に先立ち、11時から1時間、馬籠宿案内人のガイドさんから、5回の大火に会い水に苦労した用水路、住民が器財を持ち込み作った藤村記念館、夜明け前の基になった大黒屋日記等の説明を聞きながら展望台上り眺望を楽しんだ。

会場は、昨年4月にリニューアルされた馬籠ふるさと学校(旧 山口村立神坂小学校)で、各教室を合わせ最大100人が宿泊出来る施設にしている。

基調講演は、総務省地域力創造アドバイザーの高砂樹史氏による「100年先もあつたかい木曾路へ〜『知りたい』に答える観光地域づくり」と題して話された。観光は、3次産業から、1、2次を含めた総合産業に変わりつつあり、如何にして地域を再生しブランド化して、再び来てくれる事がポイントで、それには体験学習と交流を重視した活動が重要であり、木曾には[自然][歴史][暮らし]が他の地域より豊富に残り、まだまだ開発によって、お客を引き付ける魅力がある。都会に無い、スローな流れ(スローフードやスローライフ)を活用し、体験をして貰いグループ交流をして地域のファンになって貰い、リピーターをつくれれば、ターンの可能性もある。

案内人の心がけとして、1.安全安心の確保(緊急時と保険への対応) 2.テーマ性を持つ(何を伝えるか) 3.リアリティーがある(真実は地域ならではのもの)に、気を付けるようアドバイスがされた。



最後に、ガイドについての意見交換会が3グループに分かれて行われ、外国人の旅行者が増えていることを認識し、各団体共に高齢化した案内人の後継者不足、新入会員の育成の苦労等を話し合い、今後も有意義な情報交換をしながら、頑張ることを確認した。

**** 妻籠宿の案内人を募集しています! ****
話好きな方、歴史に興味ある方、連絡を待ってます!



1月26日は文化財防火デー

愛する会では毎年文化財防火デーに合わせて総務委員会を中心として防災訓練を行っています。今年も木曾消防署南分署の職員の方々の指導の下50名ほどが消火栓訓練・消火器訓練・AED講習に参加しました。地元の消防団第2分団の方々も大勢指導に来ていただきました。



宿 場 暦

- 11月3日：行列通行止め予告看板設置、政府観光局撮影
 5日：TBSビジョン撮影、季刊誌「Liart」撮影
 7日：着付練習、観協部長会議
 8日：木曽観光地づくり戦略PJ会議（王滝・理事長）、元気づくり支援金事例発表会
 9日：着付練習
 10日：やまびこフォーラム2018in須坂（～11日・理事長）
 12日：妻籠宿連絡調整会議（3名）、衣装部会
 14日：行列幟旗立て、観協役員会
 15日：行列第2回実行委員会
 16日：第41回全国町並ゼミ長野松代・善光寺大会（～18日、7名参加）、行列衣装運び出し
 20日：統制委員会、広報「妻籠宿」128号発行、行列木戸組立、木曽観光地づくり戦略PJ会議（上松・理事長）
 23日：第51回文化文政風俗絵巻之行列
 26日：京極迪宏氏お別れ会（京都・理事長）
- 12月3日：行列反省会
 4日：木曽狼煙連絡会（合庁・理事長）
 5日：協和発酵バイオ㈱撮影
 9日：三役会
 10日：衣装部会（衣装整理）
 11日：テレビ東京撮影
 12日：妻籠宿案内人の会世話人会・学習会、観協役員会、昼神観光局撮影
 13日：木曽観光地づくり戦略PJ会議（須原・理事長）
 15日：日本ナショナルトラスト全国大会（理事長）
 19日：観協役員会
 20日：統制委員会、元気づくり説明会（理事長）、眺望景観整備シンポジウム（理事長・常務）
 21日：三役会
 24日：大井水打ち合わせ（三役）、一石栃薪運び作業
 25日：広報部会
 28日：案内所仕事納
- 1月 4日：新春放談会（19名）、第13回狼煙あげ（郡内28か所・303名）
 5日：夜回り開始（～2月27日）
 7日：妻籠宿保存地区保存審議会（理事長・常務）
 9日：妻籠宿連絡調整会議（財団・町・教委・町観協・妻籠観協）
 15日：繭玉作り（観協女性部）

- 16日：理事会
 17日：木曽観光地づくり戦略PJ会議（木曽町・理事長）、案内人の会新年会
 18日：第9回ガイドさんの井戸端会議（馬籠・4名参加）
 21日：統制委員会
 22日：町指定管理監査
 24日：広報部会
 26日：文化財防火デー（51名参加）、三役会

景観保持のため、宿場内での路上駐車はやめましょう!

統制委員会審議事項

- 11月20日
 ・支障木伐採（町：資料館裏） 1件
 ・道路修繕工事（町：下町～上町） 1件
 ・公衆トイレ便器取替（町：第2駐車場） 1件
 ・支障木伐採（中電：長坂） 1件
 ・電柱新設他（中電：長坂） 1件
- 12月20日
 ・屋根塗装（尾又） 1件
 ・トイレ改修工事（上町） 1件
 ・扉の改修（上町） 1件
 ・土蔵修繕（下り谷） 1件
 ・細の沢河畔林整備事業（町：橋場） 1件
 ・支障木伐採・枝払い（町：上在郷） 1件
 ・電柱・支線新設・建替工事等（中電：上在郷） 1件
 ・接地改修工事（中電：中町軽便道） 1件
 ・群状択伐（関電：大妻籠） 1件
- 1月21日
 ・外部階段手摺修繕工事（寺下） 1件
 ・屋根修繕（尾又） 1件
 ・枯木処理（愛会：恋野～尾又） 1件
 ・裏口木戸修理（上町） 1件
 ・木曽圏域案内サイン新設（広域：第2P） 1件
 ・案内看板の更新（町：256号沿） 1件
 ・7月保留分：住宅新築（渡島） 1件

発行：公益財団法人妻籠を愛する会
 〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻2159-2
 TEL:0264-57-3513 (FAX兼用)

常務理事 今井 啓文

木曾町 上田 憲男

平成31年1月4日、寒風と所々に残る雪を踏みしめながら城山の山頂まで上がり見渡す山々や川、その中に佇む町並み、既に始まっているどんどこ焼きの煙、後ろを向けば雪の駒ヶ岳を遠くに三留野の町が見渡せます。何度も見てきた風景なのに、しばし佇んで見入ってしまうのは歳を重ねてきたせいでしょうか。

今年も町長をはじめ、毎年ドローン撮影をして下さる高木さん、そしていつも上がって下さる十数名の力を借り、種火を起こす頃には日も当たり絶好の天気になりました。

10時30分、年末に用意した桧や杉、こうやまきの葉を入れると一気に煙が高く上がります。

平成最後の狼煙あげです。遠く馬籠峠、下り谷、大妻籠、神戸、三留野愛宕山の煙も確認する事が出来、決して高くない山でも戦国時代この山に城を構えた事に納得します。

歴史的には戦いの重要な拠点である城山ですが幼い頃より遊び場として、また以前は火祭りが行われたり、現在も町中が一望出来る場所としてたくさんの観光客の方も上がられます。今年度は行政の皆様のご協力での道の整備を、また、昨年度は生い茂った木々の伐採をして頂いたおかげで一段と景観が良くなりました。

13回を重ね、今年は木曾郡内28カ所、300人余の方に関わって頂くまでになり、無事終わることが出来ました。また一年が始まります。穏やかな一年になります様願わずにはいられません。

どうぞ皆様も運動がてらに城山に登り、その眺望をお楽しみ下さい。

昨年12月のうちに実行委員でバイオマスを作っているチップ工場の所に積んである木と土、枝葉の中から軽トラ2杯分の青いヒノキや杉等の枝葉を切って集め新春狼煙あげに備えました。

1月4日の新春は天気も最高に良く、晴れて風もなく青空が眩しいほどでした。私は、木曾福島で始めてから毎年参加していましたが今年は木曾福島の7ヶ所(北から上田地区、黒川渡地区、関山公園、丘の上青峰高校グラウンド、川西地区、鳥居地区、越立峠)の内関山公園に行きました。

10時30分になったので上田地区へ無線を入れると点火したとのこと。すぐの黒川渡を見ると煙があがり始めたので関山も点火しました。10時33分です。煙は青い空によく揚がりました。しばらくして西の方を見ると青峰高校のグラウンドからの煙も見え、その向こうに川西地区の煙が勢い良く揚がっているのが見えます。広域がドローンで空撮し、西の方の写真も撮っています。木曾福島の町民記者で区長会長でもある人も来て、狼煙を背景に皆で写真を撮りました。天気も良いいい狼煙あげができました。一番南の越立峠では10時39分に狼煙をあげました。7ヶ所をリレーして最後に繋げた時間が10分かからず、狼煙の合図は早いなと感じました。同時に二者択一でなくいろいろな意思や思いをどう伝えたのかと思いました。また、実行委員も年々歳を重ね、もう少し参加者がいないと大変だなと思います。参加させる工夫等意義付けが今後大事だと思います。



妻籠城址



関山公園 (木曾町)



奈良井・木祖村
上松町・大桑村